

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4590300051		
法人名	株式会社おいでの里		
事業所名	グループホームスローシティピアノ	ユニット名	ソナチネ
所在地	延岡市平原町1丁目854-1		
自己評価作成日	平成25年2月3日	評価結果市町村受理日	平成25年4月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku_ip/45/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosvCd=4590300051-00&PrefCd=45&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成25年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「スローシティピアノ」では、ゆつくりを基本としている。「ゆつくり」がゆるされればできることは、まだまだたくさんあります。個人の持つ能力を最大限に引き出す時間を惜しまない。週に1回の手芸教室を開催し、今後は園芸療法も季節感を取り入れる目的で、月1回の開催を予定している。ピアノ便りを毎月家族に届け、利用者の様子をお知らせしている。認知症の勉強の為、スキルアップの為、全職員研修に参加できるようにしている。若い職員が多い為、明るく、元気な職場である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは、古くから商店や住宅、学校を地域に持つ地区に、平成22年に同社が高齢者専用賃貸住宅、デイサービスと隣接して開設し、地域の交流も自然体で行われている。経験豊富な管理者と若い職員が、ホームの理念である「利用者一人ひとりのペースにあわせて持っている力を引き出す」ために、向上心を持って、熱心に取り組んでいる。運営者は、利用者に質の高い介護を提供するため、職員の研修や資格取得に惜しみない支援を示している。ボランティアや外部の指導による教室を計画したり、若い職員が中心になり、日々のレクリエーションを行っており、利用者の明るく元気な声が聞かれ、笑顔が見られる。家族の来訪も多く、家族力が期待できるホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆつたりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の定例会を通じ、利用者が、地域の中でその人らしく暮らしていけるよう、職員一同、理念の共有を心掛けている。	利用者主体の運営を目指した理念を、管理者、職員は日々のケアで実践しているか常に振り返り、理念の共有に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が、季節ごとの花を施設回りの花壇に植えてくださっている。利用者も参加するように計画している。	自治会に加入し、地域やホームの情報を提供しながら、ホームの夏祭りや花壇の手入れ、地域の商店での買い物などで、相互の交流を交わしている。イベント時のかかわりだけでなく、共に暮らすホームづくりを目標にしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	同市内の福祉大生からの研修生の受け入れ、指導を行っている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、第2木曜日の午後2時と決め、開催している。開催時に、利用者の状況や活動報告を行い、質問等を受けている。	地域代表、行政等の推進員に、利用者と家族が毎回交代で参加して、定例的に開催している。利用者の生活および活動報告を通して、参加者から運営やサービス向上に生かせる意見を引き出すよう働きかけている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村の担当者から、提出書類の適切な書き方や支援面での理解しがたいことを電話や直接出向き、指導を受けている。	担当者には、運営推進会議参加メンバーとして、利用者の日常を理解してもらっている。機会あるごとにホームの運営や実情等を伝え、協力が得られる関係が築かれている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加し、身体拘束をしないケアなど、職員全体で取り組んでいる。	全ての職員が、身体拘束について理解しており、拘束を行わないためにはどうすれば良いかを考え、実行している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の研修等に参加し、チームケアを学習し、意識向上を目指す。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は、権利擁護の制度について、どのような制度であるか認識しているが、職員とともに再度学習していく。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結に、契約者が納得いくまで説明した後、締結をしている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者へは、運営推進委員会を通し、意見を頂く機会を設けている。家族からの要望は、随時対応している。	利用者および家族が気軽に意見や要望を表せる雰囲気づくりに心掛けている。来訪時には、家族が意見を表出する機会を作り、ホーム便りに記載して、職員や家族も周知できる努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常時、意見は職員から室長に上げてもらい、管理者へ意見が伝わるようになっている。また、代表者を交えた定例会を毎月開き、意見交換をすることで、運営に反映している。	時間外に、全職員参加の全体会議やミーティング、カンファレンスにおいて話し合い、全職員で結果を共有し、運営に反映させている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員は、全員正規雇用。職員が全員、向上心を持って働ける環境整備に努力している。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	順番に、能力に応じた研修へ参加できるよう、計画を立てている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はグループホーム連絡協議会懇親会へ出席し、交流を図り、意見交換等し、サービスの向上につなげている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安なこと、要望があれば、時間をゆっくりと傾聴している。気持ちを出しやすくできるよう、交流をできる限りもっている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の不安、悩みを共有できるよう支援している。面会時、随時、要望があれば相談を受けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が求めている支援を見極め、対応に努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	すべて職員がするのではなく、利用者が出来ることは共に行うようにしている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係の理解に努めている。家族の面会があった時は、近況を報告している。職員と家族の交流で、より本人と家族の絆が深まるように支援している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理・美容に出かけたり、ホームに来てもらえるように働きかけている。また、関連施設に友人がいる場合、職員間で連携を取り、交流が途絶えないようにしている。	なじみの美容師が来訪し、ホームで整髪してもらったり、隣接のデイサービスに通う友人との交流やはがきを出す支援を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション活動を充実させたり、生活の部分で協力し、同じことを行ったりして、自然に交流できるように努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があれば、支援していくよう努める。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員全員が一人ひとりの思いに関心を持ち、把握が困難であった場合は職員全員で話し合い、本人を理解するよう努める。	利用者を把握するために、ケース検討会を通して、職員は情報を共有している。家族との対話の中から、昔の好みや生活習慣を把握し、本人の気持ちを理解しようと努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族の面会時、本人の生活歴や暮らしの様子を伺い、これまでの暮らしと大差ない生活ができるよう支援している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	朝礼、介護記録、バイタルチェックによる健康管理を行い、状況、状態の把握に努める。勤務交代時、申し送り記録で職員間の情報交換を行っている。管理者には、夜間あったことの申し送りも行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意見の出しやすいBS法にて、本人、家族の求める介護について意見を出し合い、その意見を基に、介護計画を作成し支援を行う。	来訪時の家族の意向や職員の意見、介護記録などを、利用者の生活主体の介護計画の作成に反映させている。目標達成に向けてモニタリングし、介護計画の見直しに反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録にて、一日の様子を記録し、センター方式(生活リズム)で一週間の記録をしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族の状況や要望に応じて、柔軟な支援を行えるようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の大学生やボランティアの協力により、祭りの実施や手芸等を行っている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力機関をかかりつけ医とし、馴染みの関係、継続的な医療が受けられるよう支援している。24時間体制で連絡が取れ、緊急時にはすぐ対応が出来る体制をとっている。			
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職が日常の管理を行い、状況の変化を看護師に報告し、協力医から指示を受け対応している。24時間体制で連絡できる体制作りをしている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、家族や病院関係者と密に連絡を取り、情報交換や相談に努める。いつ退院してもよいように、環境を整備しておく。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所で出来ること、出来ないことを見極め、医療・介護がチームとして支援できるよう、今後準備を進めたい。		急変時の夜間受診や入院が必要な時は、協力医や連携医療機関の受け入れ体制が確認されている。ホームにおいてのターミナルや看取り体制は確立していないが、看護師が勤務するようになり、方向性を検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生に備えての訓練などを行っているが、実践力を身につけるための訓練を定期的に行っていきたい。			
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者が、避難できる訓練を定期的に行っている。課題として、地域の方々の協力を得て、一緒に訓練を実施していきたい(避難場所南小学校三階)。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	家族から利用者の性格を教えていただいたり、日々の生活の中で感じ取り、一人ひとりに合わせた言葉かけや対応が出来るよう努めている。	家族的で親しい仲にも、丁寧で誇りを傷つけない言動で接するよう努めている。食事や口腔ケア、排せつ確認や誘導には、プライドを損ねない言葉かけや移動が行われている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の会話や仕草などから、職員が気づき、本人の思いや希望を肯定し、自己決定できるように働きかけている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のペースに合わせ、その時の希望に沿って支援できるようにしている。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣の際は、利用者自身が選び、その人らしい身だしなみ、おしゃれができるよう支援している。困難な方は一緒に選び、自己決定できるように支援している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の利用者の意欲や体調に応じ声掛けを行い、配膳や下膳等を見守りながら行っている。たまには外食を計画し、実施している。	献立は、利用者の希望や職員で話し合い、地域の商店の食材を用いている。同じ食材を日常生活動作に応じて、2ユニット合同で調理し、個々のペースで食事を楽しみ、完食できるよう職員も同席している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量は、毎食後記録しており、食欲低下・水分摂取の困難な方には、代替品やロミ剤を使用する等一人ひとりに応じた支援をしている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っている。声かけをし、出来るところを本人にさせていただき、出来ない部分を職員が介助している。			

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や一人ひとりのトイレに行きたいという仕草などから排泄パターンを察知し、排泄の失敗やおむつの使用を減らせるように支援している。また、自尊心の尊重にも配慮している。		日中は、全ての利用者のトイレでの排泄つを支援している。尿意、便意がなくても、時間誘導により、排泄の自立支援を目指している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録にて、排泄パターンや習慣を把握できるように努めている。また、適度な運動や水分補給にも配慮し、便秘の予防をしている。便秘の方には、医師の指示のもと、便秘薬の服用を行うこともある。			
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	バイタルチェックと体調、ご利用者の希望を踏まえ、無理強いせず、ゆっくりと個々のペースに合わせて、気持ち良く入浴できるように配慮している。		毎日の入浴ができ、利用者の個々の洗身介護（自立、一部介助、全介助）を行い、保湿用入浴剤で変化を楽しみながら、ゆったりとした入浴を支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じて、照明や居室の温度など環境整備に配慮している。また、寝付けない方には、話をゆっくり聞くなどして、安心して眠れるように支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬内容は、ファイルにて確認できるようにしている。薬剤情報により、作用・副作用・食べ物の確認。薬の変更があれば、全職員が把握できるよう申し送りノートに記載、周知徹底を行っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の生活の中で、洗濯干し・たたみ、食器洗い、お盆拭きなど、個々の役割として支援している。また、毎月活動予定表を作成し、回想療法、運動療法等を行う中で、楽しみをもっといただけるような機会を提供している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の体調や精神状態、天候を考慮し、散歩やドライブ、買物、外気浴など行っている。また、家族の協力を得ながら、外食や旅行に行かれる方もいる。		毎月1回は、隣接の送迎車を借用して、全員の外出のほか、地区の商店での買い物や散歩を行っている。家族で外出や外食を支援することも多い。	

自己	外部	項目	自己評価	ソナチネ	外部評価	
			実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の希望で買い物に出かけ、本人に品物を選んでいただき、その方の能力に応じて、支払える方は自分で払っていただく。困難な方には、職員が付き添い支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な人とのやり取りが出来るよう、電話をかけた等々の要望があった場合、その都度対応している。			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓からは自然の光が入り、山が見え、季節感が感じられる。また、テラスには、日よけのあるテーブルと椅子があり、利用者が自由に座れるようになっている。暖かい日には、そこでティータイムを行うことがある。	リビングは大きなソファを置かず、座り心地の良いソファ張りのいすを食事や団らんに使用するので一層広々とし、採光や風通しもよい。デッキに出れば、外気浴、プランター花壇、パラソルを使えば、四季を通して楽しむことができる。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファがあり、リビング以外でも椅子やベンチを置いてあり、ゆっくりと過ごしていただけるように環境作りをしている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族により写真や本、気に入っているぬいぐるみ等、本人と相談しながら持参していただいている。落ち着いて過ごせるように、家族の写真・思い出の品を飾り、自室らしい作りとなっている。	本人や家族と相談し、家具や収集品、身近に置きたい位牌や遺影を持ち込んでいる。自室の入り口には、名前と写真をはり、間違わないよう配慮している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りの設置、バリアフリーはもちろんのこと、環境整備のため、新しく手摺りを増設。室内は明るく、写真や文字で分かりやすく表記し、利用者が認識しやすいように工夫し、安全で快適な環境づくりに努めている。			